



CBP ～中央高校交流会議～

学校名に「中央」が入る鹿児島県内の高等学校6校（出水中央、薩摩中央、国分中央、鹿屋中央、鹿児島中央、種子島中央）の生徒代表が集まり、セントラルハイスクール・ボーダーレス・プロジェクトを略した「CBP～中央高校交流会議」が種子島中央高等学校で行われた。

新しい風 ～ CBP 5周年の節目 ～

六校六色の学校紹介

種子島中央高校体育館でそれぞれの高校の学校紹介が行われた。各校の生徒会執行部よりユニークなクイズや学校で作ったジャム、ドレッシング、金平糖のプレゼントなど、六校の色を出した紹介となった。

その後、種子島の方言クイズを行い、ヒントとして種子島中央高校の生徒が寸劇を交え、「むじよか」や「のちーよー」、「ばきい」などの方言が出題され、会場が大いに盛り上がった全体会となった。

絆を深めた交流会

これまでのCBPでは、十八歳選挙権や携帯電話の利用について話し合ってきた。今回CBP発足五周年記念ということで、二月の発足記念日に六校全体で生徒会新聞を発行することが新たに決まった。

昼食は情報処理科の一年生が考案した「種子島のオリジナル弁当」を試食し、アンケートを願っていた。その他にも貝殻やシーグラスを使ったフォトフレームを作り、交流を深め、有意義な一日となった。

一期一会

最後に熊野海岸の清掃を行った。県本土から参加した生徒は、透き通るエメラルドグリーンの海に「海だ!」「きれい!」と感動しているようであった。清掃後は全員で宇宙サイダーを飲み、記念撮影をした。

CBP解散式では、各学校の代表者が一言ずつ述べた。そして種子島中央高校から今後の発展を願うメールが送られた。船出の時には「絶対また来る」と言う生徒が多く、種子島を満喫し、会議の成功を物語っていた。